

# 消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- ① 調査の目的 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- ② 調査の方法 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- ③ 調査の対象者 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- ④ 調査期間 平成25年3月1日(金)～14日(木)

山形/モニター世帯数: 511世帯  
有効回答数: 473世帯(回答率: 92.6%)  
秋田/モニター世帯数: 391世帯  
有効回答数: 352世帯(回答率: 90.0%)

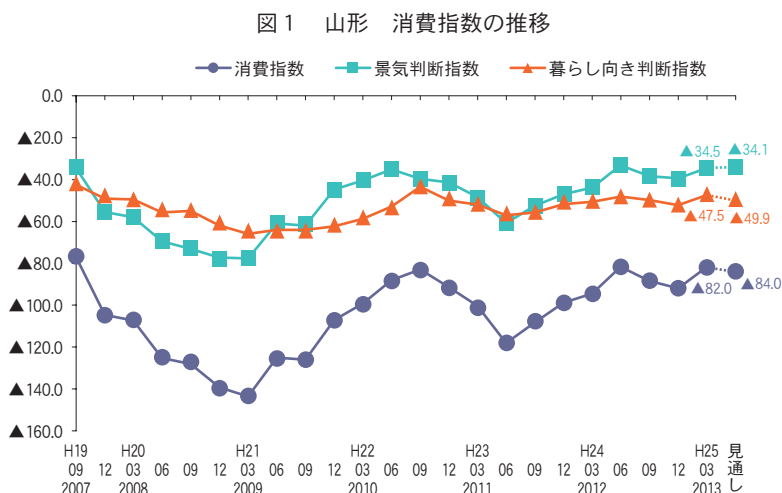
## 消費指数

### 第27回 山形県の家計消費動向調査

～3期ぶりの消費マインド回復ながら、先行きはなお不確か～

消費指数は▲82.0(前期比9.9ポイント上昇)となり、3期ぶりに回復した。内訳として景気判断指数が▲34.5(前期比5.2ポイント上昇)、暮らし向き判断指数が▲47.5(前期比4.7ポイント上昇)といずれも3期ぶりに回復した。

一方、今後の見通しは、消費指数が▲84.0(今回調査比2.0ポイント下落)と悪化の見込みとなっている。以上総括すると、最近の円安・株高傾向を反映し、総じて消費マインドに良い方向への変化が見られるが、後述のとおり、物価上昇への警戒感から一本調子で回復していくかどうかはなお、不確かな状況と言えよう。



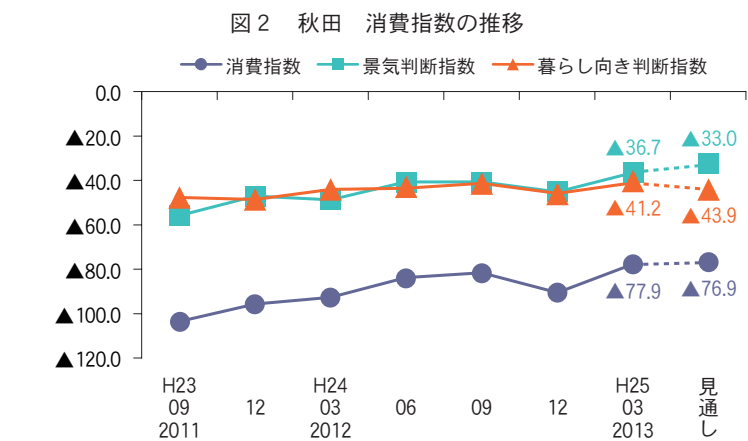
### 第7回 秋田県の家計消費動向調査

～消費マインドは2期ぶりに改善ながら、暮らし向きには先行き不透明感～

消費指数は▲77.9(前期比12.8ポイント上昇)と2期ぶりの改善となった。内訳として景気判断指数が▲36.7(前期比8.2ポイント上昇)と3期ぶりに改善し、暮らし向き判断指数が▲41.2(前期比4.6ポイント上昇)と2期ぶりに改善した。

今後の見通しは、消費指数が▲76.9(今回調査比1.0ポイント上昇)と改善の見通し。内訳は、景気判断指数が▲33.0(前期比3.7ポイント上昇)、暮らし向き判断指数が▲43.9(前期比2.7ポイント下落)となっている。

以上総括すると、最近の円安・株高傾向を映じて、消費マインドは改善の動きを示しているものの、後述のとおり、物価上昇懸念が見られるなか、暮らし向きには先行き不透明感がうかがえる。



#### 【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとり)の4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

## 景気と暮らし向き

### 景気判断

山形の指数は▲34.5(前期比5.2ポイント上昇)となり、3期ぶりに回復が見られた。指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」が▲8.8(前期比6.3ポイント上昇)、「雇用環境」が▲10.6(前期比4.5ポイント上昇)と大幅に回復した一方で、「物価(日用品)」が▲15.1(前期比5.6ポイント下落)と悪化した。今後の見通しにおいても「物価(日用品)」は▲17.5と、物価上昇への警戒感が更に強まる見通し。

秋田の指数は▲36.7(前期比8.2ポイント上昇)と3期ぶりの改善となった。指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」が▲9.6(前期比7.0ポイント上昇)、「雇用環境」が▲13.2(前期比5.2ポイント上昇)と共に2期ぶりの改善となった一方、「物価(日用品)」が▲13.9(前期比4.0ポイント下落)と悪化した。今後の見通しにおいても「物価(日用品)」は▲15.7と、物価上昇への警戒感が色濃くうかがえる。

### 暮らし向き判断

山形の指数は▲47.5(前期比4.7ポイント上昇)となり、3期ぶりに回復した。指数を形成する4つの指数については、「世帯収入」が▲12.0(前期比0.9ポイント上昇)、「保有資産」が▲12.2(前期比1.8ポイント上昇)、「お金の使い方」が▲9.0(前期比1.2ポイント上昇)、「暮らしのゆとり」が▲14.3(前期比0.8ポイント上昇)と、すべての指数で回復した。

秋田の指数は▲41.2(前期比4.6ポイント上昇)と2期ぶりの改善となった。指数を形成する4つの指数については、「世帯収入」が▲10.9(前期比1.5ポイント上昇)、「保有資産」が▲11.4(前期比1.6ポイント上昇)、「暮らしのゆとり」が▲11.9(前期比2.1ポイント上昇)と3項目では改善となった一方、「お金の使い方」が▲7.0(前期比0.6ポイント下落)と小幅ながら悪化となっている。

### 家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が461千円と前年同期比で7千円の減少となり、世帯主の勤労収入や「保険満期戻金」の減少が主要因となっている。支出面では424千円と、前年同期と比べて横ばいとなっている。その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は92.0%で、前年同期比1.5%の増加となった。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が450千円と前年同期比で26千円の増加となり、世帯主の「勤労収入」や「有価証券売却・解約金(株、投資信託など)」が減少した一方で、「相続、贈与、退職金」や「保険満期戻金」、「保険一時金(生命保険、損害保険など)」などの増加があったことが主要因となっている。支出面では365千円と前年同期に比べて9千円の増加となっている。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は81.2%となり、前年同期と比べて3.0%低下している。

